

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	廣池学園	大学名	麗澤大学
研究プロジェクト名	人口・経済・家族の長期的研究：多世代パネルデータベース構築		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究プロジェクトの目的は、麗澤大学が12年来継続してきた国勢調査以前人口経済資料の整備・データベース化とそれを利用した人口・家族史の国際的比較研究に立脚し、本学所蔵の研究資料群を活用した新たな社会科学研究の可能性を切り開くとともに、マイクロ歴史統計研究の世界的研究拠点を構築することである。具体的に2つの目標を掲げる。第一に<1>アーカイブスの設立と多世代パネルデータベース構築を目指し、(1a)資料のデジタル化、(1b)資料検索メタデータベースの拡充、(1c)人口・世帯データファイルの統合と拡充を行う。第二に<2>多世代パネルデータベースを利用した学際的・国際的研究として、(2a)多世代ライフコース分析、(2b)経済指標構築と格差分析、(2c)人の移動・交流と地域圏形成分析を目指す。国勢調査以前の稀有な人口経済資料を活用することで、長期的視点から人口変動、経済格差、家族形成を再考する学際的な対話の場と実証研究のモデルを提供できると期待できる。

計画概要：H27に環境整備と資料管理方法を確立し、H28に資料検索プログラムを整備し、H29-31に改善・改修を図る。歴史資料解読と入力・デジタル化作業、データベースプログラムの開発と、地域を統合した多世代パネルデータの構築は5年間継続する。H27-28は町村の座標をデジタル化してGISに組み込んで移動データを構築し、H29-30は結婚・労働移動のモデルの開発、地域比較のライフコース分析、経済格差の推計を試みる。研究成果は、国内外の学術雑誌・学会での報告、学会・シンポジウム・国際セミナーの開催(H28)、国内外学会におけるセッションの企画(H28-31)、一般公開展示・シンポジウムの開催(H31)を通して広く社会・国民に発信し、研究拠点としての資料公開や共有体制を図る。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

本研究プロジェクトの柱である<1>アーカイブスの設立と多世代パネルデータベース構築は、中間時点において十分な成果を上げている。それを受けて<2>多世代パネルデータベースを利用した学際的・国際的研究は目標に向かって体制が整いつつある。

<1>初年度に資料管理と作業の場を設置し、(1a)マイクロフィルム・紙媒体の歴史資料が散逸かつ劣化せずに統一管理できるようにデジタル化を進めた。(1b)資料検索プログラムを拡充し、資料媒体の物理的な検索、地図機能の追加による研究対象の把握の効率化を図った。(1c)新規の歴史資料の解読整理と入力を行うとともに、約50町村の既存入力ファイルを統合し、データベースマネージメントの方法を開発した。さらにこの過程で明らかになった歴史資料特有の内容文言の多様性に対処するため、手作業での歴史資料とのチェックとともにデータクリーニングを進めている。

<2>近世日本の各町村における人口と世帯の趨勢をとりまとめ、地域性と時系列的変化という二つの軸から人口・世帯のパターンを描き出す手がかりを得た。(2a)多世代ライフコース分析：結婚・出生・移動・死亡に関する比較研究について国際的学術雑誌への掲載を果たした。さらに結婚・離婚の視点から過去と現代を比較するというアプローチに挑み、国内外の学会で評価を得た。(2b)経済指標構築と格差分析：世帯の持高の変化と村内における土地分配の構造についての分析を試み、歴史資料の信頼性を確認するための他資料との突き合わせや、地域資料の確認を行った。また、村高(村の総合石高)情報を利用する方法で経済指標構築をはじめた。(2c)人の移動・交流分析：福島県郡山周辺町村の人別改帳の移入・移出先の町村の座標(緯度経度)を比定し、人口移動の空間的な広がりとその特徴の分析を試みた。以上3つの視点から長期及び空間分析のモデルを検討した。

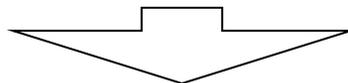
法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 年 月 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究プロジェクトの目的は、麗澤大学が12年来継続してきた国勢調査以前人口経済資料の整備・データベース化とそれを利用した人口・家族史の国際的比較研究に立脚し、本学所蔵の研究資料群を活用した新たな社会科学研究の可能性を切り開くとともに、マイクロ歴史統計研究の世界的研究拠点を構築することである。歴史資料の「宗門・人別改帳」は、江戸時代に実施された人口・世帯調査といえる。町村に居住する全人口が把握できる人口センサスであり、かつ個人の動態情報を含んだ、現代人口では把握不可能な多世代を追うことのできる究極のパネルデータである。研究代表者は、速水融(本学名誉教授・文化勲章受章者)の寄贈(全国の約1,650町村の宗門・人別改帳)をうけてその整理を進めてきた。本プロジェクトでは、これらのマイクロフィルムと紙媒体の宗門・人別改帳、またその一部の古文書を解読し家族復元したBDS(基礎整理シート)を含めた膨大な資料群を、麗澤アーカイブスとして体系的に整備する。また、これまでの研究でデジタル化されてきた人口・家族・経済情報のデータベースを統合拡充し、斬新なアプローチで活用するシステムを確立する事が目的である。

このために2つの目標を掲げる。第一に<1>アーカイブスの設立と多世代パネルデータベース構築を目指し、(1a)歴史資料のデジタル化、(1b)資料検索メタデータベースの拡充、(1c)人口・世帯データファイルの統合と拡充を行う。第二に<2>多世代パネルデータベースを利用し、3つの視点(2a-2c)から学際的・国際的研究を目指す。(2a)多世代ライフコース分析:時系列データを活用し、個人と世帯、そして経済社会や家族システムとのつながりを理論化し検証する。(2b)経済指標構築と格差分析:町村ごとの経済格差分布とその時系列的变化を追い、世帯サイクル・規模と富の格差との関連についての新しいモデルを開発する。(2c)人の移動・交流と地域圏形成分析:人別改帳の移動情報をGISとリンクし、近代移行期の地理移動分析と、近代的都市化につながる分析の方法論を開発する。(2a)は研究代表者と津谷が参加した5カ国の国際比較研究において多変量解析を導入した人口・世帯行動の比較の実績があり(Lundh, Kurosu, et al. 2014; Tsuya, et al. 2010)、その画期的な方法論と、西欧とアジア、また近代前と後という二項対立的な枠組みを超える実証研究が高く評価されている。ただしこの分析には日本の2村しか利用されていない。本プロジェクトでは同様のモデルを他地域へ応用する事から、従来の単純な分類に頼らない、多様な人口・家族の地域性を描くことができる。(2b)(2c)はこれまでにないボトムアップの方式で、日本の近代化の経済的・地理的基盤形成の様相を描き、現代社会に示唆のある長期的な分析も期待できる。

計画の概要:<1>アーカイブスの設立と多世代パネルデータベース構築:H27に環境整備と資料管理方法を確立し、H28に資料検索プログラムを整備し、H29-31に改善・改修を図る。歴史資料解読と入力・デジタル化作業、データベースプログラムの開発と、地域を統合した多世代パネルデータの構築は5年間継続する。<2>データベースを利用した研究:3つの分析(2a-2c)を同時進行で進める。H27-28は町村の座標をデジタル化してGISに組み込み、重点地域を選定してライフコースと格差分析を進め、H29-30は移動指標の構築を行い労働移動のモデルを開発するとともに、地域比較のライフコース分析と経済格差の長期推計を試みる。H27の日本人口学会シンポジウム、国際人口学会セミナーの開催、また毎年内外の研究者を招いた国内外学会でのセッションの企画開催、年4~5回の歴史人口学セミナーの企画開催、H31の一般公開シンポジウム・展示、研究者間のデータベース共有のシステム確立などを通して、研究成果のまとめと、社会・国民への成果の発信を行い、研究拠点としての今後の準備を図る。

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

(2) 研究組織

本プロジェクトは学内4名、学外4名の研究者によって、本学図書館に所在する人口・家族史研究プロジェクト室を拠点に行われている。<1>資料管理・整理、歴史資料解読とデジタル化は研究代表者と高橋が中心に進めている。古文書解読整理、各年データの照合、入力、データベースのクリーニング作業などについて、全般の指揮をとるとともに、データベース構築を行っている。<2>多世代パネルデータベースを利用した研究は、(2a)多世代ライフコース分析を研究代表者と津谷が、(2b)経済指標構築と格差分析の開発を斎藤と有本が、(2c)人の移動・交流と地域圏形成分析の開発を高辻、佐藤、籠が中心となって進めている。また H29 より RA1 名が、英語によるコードブック作成や論文執筆に携わっている。学内においては研究報告会やスタッフミーティングを設けて進捗状況と問題点の整理・対策を、学外研究者とは研究代表者主催の歴史人口学セミナーの機会やメール相談によって連携を図っている。

(3) 研究施設・設備等

麗澤大学図書館 4F の「人口・家族史研究プロジェクト室」に資料整理・管理・閲覧・作業の場を設け、デスクトップ型パソコン 2 台、ノート型パソコン 2 台を整備し、データベース構築、入力とデータクリーニングなどを行っている。またスタッフや研究者が宗門・人別改帳を自由に閲覧し作業ができるように、隣接する会議室を整備した。この他の資料を図書館 3F 資料室と4F 倉庫に整理保管した(以上、合計 176 m²)。4F プロジェクト室では、週 5 日(各 6 時間)、研究者 1 名、院生 1-2 名、スタッフ 2-4 名が上記作業を行っている。また月に 1 度本プロジェクト研究者間の連絡会議、委託業者との打ち合わせ会に利用している。

(4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

プロジェクトの目標の<1>アーカイブスの設立と多世代パネルデータベース構築は中間時点において計画通りの成果を上げ、学会・シンポジウム・セミナー開催を通して内外から研究拠点としての評価を得はじめている。<2>多世代パネルデータベースを利用した学際的・国際的研究という目標のうち、ライフコース研究は国際学術雑誌への掲載で成果をあげはじめている。格差と移動分析はそのための新規データベース構築を含め試験的分析を続けている。研究者及び一般社会への成果の発信は今後の目標である。以下では、<1>アーカイブスの設立と多世代パネルデータベース構築を目指した、(1a)資料のデジタル化、(1b)資料検索メタデータベースの拡充、(1c)人口・世帯データファイルの統合と拡充、<2>多世代パネルデータベースを利用した、(2a)多世代ライフコース分析、(2b)経済指標構築と格差分析、(2c)人の移動・交流と地域圏形成分析、それぞれの進捗状況と達成度を具体的に示す。

(1a)資料のデジタル化:初年度に資料管理と作業の場を設置し、マイクロフィルム・紙媒体の歴史資料が散逸かつ劣化せずに統一管理できる体制を整えた。これらの資料は速水融(本学名誉教授・文化勲章受章者)と研究グループが 40 年来収集してきた地方の宗門・人別改帳が中心である。マイクロフィルムはこれまで温度・湿度管理が困難で永続的管理が問題であった。本プロジェクトでは、劣化対策として優先的にマイクロフィルムのデジタル化を図ることにした。H27-29で、合計1,236本のマイクロフィルムをデジタル化した(全体目標の7割)。宗門・人別改帳を解読した基礎整理シート(BDS)は、B4版の紙で扱いにくい点と劣化の危険性に鑑み、宗門・人別改帳の内容が入力されている町村のBDSから順次PDF化を行っている。これまで約20町村(約2万枚)のBDSのPDF化を行った。これによって、データベース構築のための歴史資料との照合チェックの効率が飛躍的に上がった。アーカイブス所蔵の利用可能な全体数としては、まだ8割強の町村のBDSが残っているため今後はそれらを整理して、PDF化していく。

(1b)資料検索メタデータベースの拡充:アーカイブス利用のために、検索システムを充実させることは重要である。歴史資料の利用促進を目指して、これまでに作成していた簡易な検索システムを見直し、「PFHP(人口・家族史研究プロジェクト)資料検索プログラム」として、所蔵資料全体を登録し、本プロジェクト室において、資料媒体の物理的な検索がしやすいように拡充を図っている。複数の検索コードの追加、所蔵資料該当町村の一部の座標(緯度経度)の比定と地図機能の追加、また国立歴史民俗博物館所蔵の「旧高旧領取調帳データベース」との照合を行い、検索プログラムに反映させはじめた。さらに統計的に所蔵資料の属性を把握できるような試みもはじめた。

(1c)人口・世帯データファイルの統合と拡充:長期マイクロデータとして約50町村の個別入力ファイルを統合し、SQLを利用したリレーショナルデータベースによる資料管理から、統計分析に直結できるSTATAを利用したデータベースマネジメントの方法の確立を図った。これによって、人口・世帯情報を統一した形式で算出できるようになった。しかし、より詳細な世帯内における個人の続柄や出生・死亡・結婚・移動など

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

の動態情報については、プログラムだけでは対処できず、手作業で続柄と移動情報のカテゴリー化をする必要が出てきた。同時にデータクリーニングの必要性も判明し、データチェック、再入力、記号つけなどの作業を進めている。BDS 情報との照合確認が必要な煩雑な作業で、現在 23 町村(18 万 2 千人・年)の準備ができたところである。

この他に、新規データを作成してデータベースを拡充するため、陸奥国安積郡大槻村をはじめとする 5 村の宗門改帳の解読と経年情報の照合、越後国頸城郡手島村を中心とする約 50 村の各年の個人情報の記号化を行い、それらのうち 10 村の入力を行った。また、世帯の社会経済指標となる石高データベースとして新たに 70 村の石高指標の入力を行った(解読された歴史資料の約 3 割)。また地理情報データベースとして福島県郡山周辺の人別改帳に示される移出入先・元の緯度経度を組み込んだ(詳細は以下(2c))。

(2a) 多世代ライフコース分析: 時系列データを活用し、まず近世日本における人口と世帯の変化の全体像を描くことに努めた。これまで歴史人口学では詳細ではあるが一地域に偏った研究が多く、人口と家族の地域性も 2~3 の分類に限られていた。大規模データベースの利用によって、地域性と時系列的変化という二つの軸から人口・世帯のパターンを描き出す手がかりが示された。次に個人と世帯、そして経済社会や家族システムとのつながりを検証する研究として、同居親族の死亡・移動への影響(*1)、結婚のタイミングに関する町場と農村の比較研究(*2)、結婚と女兒・男児選好の関係(*3)の研究について国際的評価の高い学術雑誌への掲載を果たした。さらに結婚と離婚の視点から過去と現代を比較する(*4)という新しいアプローチにイベントヒストリー分析を適用し、学会報告で反響を得た。

(2b) 経済指標構築と格差分析: 陸奥国安達郡仁井田村の人別改帳を利用し、世帯の石高の変化と村内における土地分配の構造についての分析(*5)を試み、東北一農村ではあるが、村高制の効用を示すことができた。その過程(学術雑誌投稿時の査読)で人別改帳における持高の意味や信頼性の確認の必要が判明し、他の資料との突き合わせや地域資料の確認を行った。データレビューの重要なステップである。また、近世の経済格差分布とその時系列的変化を追うために、アーカイブスの宗門・人別改帳の帳末の村高(村の総合石高)を利用する方法で経済指標構築をはじめた。

(2c) 人の移動・交流と地域圏形成分析: 人別改帳の移動情報を GIS とリンクし、近代移行期の地理移動分析と、近代的都市化につながる分析の方法論を開発する準備を進めた。麗澤アーカイブス所蔵の人別改帳から作成された基礎整理シート(BDS)のうち、福島県郡山周辺 5 町村の労働移動、結婚移動などを中心とする移出入先の地理的情報を整理・コード化した。このうち 3 町村の移出入先である 1,347 町村の座標(緯度経度)を比定した。この地理情報と人口移動データの照合を図り、郡山周辺地域については 35,006 件のイベントの移出入先町村を明らかにした。さらにその移出入先を国立歴史民俗博物館所蔵「旧高旧領取調帳データベース」の村情報と照合し、1,054 町村についての地域経済指標(村高)を人口情報に追加した。これらの煩雑な作業を経て、3 町村の人々の移出入パターンを把握し、人口移動の空間的な広がりとその特徴を明らかにするという分析(*6)を試みた。これによって町村、時代による移動パターンの違いの把握とともに、GIS を用いた地図化を行った。

以上の二つの研究の柱に加えて、研究拠点形成を目標に、本プロジェクトの位置づけを明らかにすることと、歴史人口学の研究者のみならず、様々な分野の研究者、また一般社会への発信を目指している。これには、(1)東アジアデータの比較研究の中での本プロジェクトデータベースの特性の評価(*7)、アジアの人口学研究ハンドブックをはじめとする一般研究者に向けたプロジェクト概要の発信(*8)、(2)麗澤大学における学会・シンポジウムの開催(*9)、(3)国内外での学会における特別セッションや歴史人口学セミナーの企画・実施(*10)が含まれる。さらに、本プロジェクトを通して若手を育成することにも力を入れており、本学大学院言語教育研究科・比較文明文化専攻の博士課程学生 1 名(RA)、修士課程学生 3 名に、歴史人口資料の整理・入力など歴史人口学の現場に関わることで、歴史資料から成果発表までの道のりを体験させ、また、学会開催運営(日本人口学会、国際人口学セミナー)協力の経験を通して、学際的研究の方法を指導した。このうち、修士学生の一人は、本プロジェクトのデータを利用し修士論文と学術雑誌刊行を果たした。次年度からはリサーチアシスタント(RA)として本プロジェクトに参加する。また、イタリア・サルディニア大学の修士課程学生、香港科技大学の博士課程学生、米国・カリフォルニア大学 Davis 校の博士課程学生を本学に迎え指導と研究支援を行った。このうち香港科技大学の学生は本プロジェクトの人口データを利用して博士論文を修了し、現在米国プリンストン大学でポストドクターをしながら、本プロジェクトの研究協力に携わっている。米国・カリフォルニア大学 Davis 校の博士課程学生は本プロジェクトの石高データを利用して博士論文に取り組んでおり、本プロジェクトの経済指標の構築に協力してくれている。

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

<特に優れた研究成果>

1. アーカイブス: 本プロジェクトでアーカイビングを目指している歴史資料は、速水融(本学名誉教授・文化勲章受章者)が「世界遺産」と称し、半世紀にわたって全国から収集整理した「宗門・人別改帳」が中心である。これらの国勢調査以前の稀有な人口経済資料は膨大な数の紙媒体資料とマイクロフィルムであり、研究代表者は麗澤大学図書館の協力を得て、物理的に散逸させずに整理を進めてきた。本プロジェクトではさらにそれらをデジタル化し、メタデータベース(検索プログラム)を拡充することによって、歴史資料の耐久性を保証した管理と、「公共財」として、場を越えた歴史資料利用の可能性を確立しつつある。
2. 空間的・時間的連続性・非連続性の研究: 歴史人口学また隣接する社会科学の分野は研究資料的制限の中で理論化されてきた。本プロジェクトでデータベース化された歴史資料の活用によって、近代センサス以前の人口と経済行動をマイクロレベルから時系列的かつ横断的に把握する可能性が見えて来た。その成果として、(a)実証的に人口と世帯の地域性(*11)を描きだすことができてきた。また、(b)過去と現在をつなぎ、未来を予測する(Linking past to present)という視点での斬新な研究方法(*12)を国内外の学会に問うたことは大きな成果である。近世から現代への日本の家族と人口の連続性と非連続性の議論を開始することができた。特に結婚・離婚の研究(*13)は過去から現代という一方向的・二元論的に語られがちな人口と家族の動向を見直す意味で評価されている。
3. 移動と結婚・労働市場の研究: 福島県の郡山地域を中心とする「移動」情報をデータベース化し、地理情報とリンクしたことで、GIS を利用した近代移行期の地理的移動分析と、人々の結婚・労働をめぐるネットワーク(*14)を描き出す糸口が発見された。平面的なネットワーク(結婚圏、奉公圏など)に時間軸が加わるという新しい研究である。

<問題点とその克服方法>

1. アーカイブス: 上記の通りの成果を上げて来ただけに、今後、「公共財」としての歴史資料とデータベースをどう公開し、研究者間で共有かつ拡充・発展させていくかが大きな問題である。特に公開・非公開資料を段階的に見極め、整理する必要がある。この点については、すでに大型データベースの公開・共有を果たしている世界の歴史人口学研究拠点(具体的には、香港科技大学、アメリカ・ミシガン大学 ICPSR、スウェーデン・ルント大学など)、また日本で宗門改帳のデジタル版を公開(DANJURO)している帝塚山大学などの管理・公開方法に学び、整備していく。
2. データベースの拡充: これまでの研究は良質で長期に連続する福島県郡山周辺の歴史資料を中心に利用してきた。多数の地域・時代の資料を加えてデータベースを拡充しているが、歴史資料には地域的特性があり、特に戸主また世帯内メンバー間の続柄やイベントの記録のされ方が多様であるため、データベース化は単純ではない。これについては、手作業で、基礎データシート(BDS)を目視により確認してコード化しつつ、STATA を利用したプログラムに反映させてデータを構築するというマンパワーを投入した方策を取らざるを得ない。このコード化も、また新規 BDS の入力も、BDS の読み方から入力の方法までのトレーニングを受けた者しか取りかかることができないのも問題である。これについてはトレーニング期間において地道に取り組んで行く。
3. 経済格差の指標: 社会経済指標である各世帯の持高の情報のデータベース化が遅れている。これまで人口データを中心に整理が進められてきたためである。また実際に歴史資料(宗門・人別改帳)の中で持高の記載があるものに地域的な格差があることもわかってきた。マンパワーの投入で別途石高データベースを構築すること、また各村の宗門・人別改帳の帳末から村高(村の総合石高)を抜き出すという方法で対処を試みている。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>
特になし

<今後の研究方針>

H30-31 も上記(1a)～(1c)にあげたアーカイビングとデータベース構築作業を継続し、データベース全体のサマリーとレビューをまとめて国内外学会誌に投稿すること、またデータベースの公開環境を整え、内外の研究者と共有する体制づくりを目指す。それらを利用した3つの分析(2a～2c)の研究成果をまとめ、内外の学会報告と学術雑誌への投稿を図る。国内外学会での企画セッション、一般公開・展示とシンポジウムを通して、広く世界の研究者からローカルな場も含めた社会・国民への発信をめざす。

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

＜今後期待される研究成果＞

1. 多世代パネルデータベースの地域的時代的拡充を進め、さらに経済指標のデータベース、地理情報データベースと合わせることで、規模は小さいが情報詳細量では勝るといふ点で、現在、歴史人口学研究で国際的に活用が進む中国清朝の多世代パネルデータベース(CMGPD: China Multigenerational Panel Database) やスウェーデンの経済社会人口データベース(LUMDD: Lund University Macroeconomic and Demographic Database) に匹敵する歴史人口のパネルデータとなる。これによって近代移行期の日本の人口・経済・家族研究が大きく発展するだろう。さらに、経済指標の活用と GIS の適用で、世界に類を見ない経済格差の時系列的・空間分析方法が提案できると期待される。
2. 多世代パネルデータベースは、現在の人口・社会・経済研究では構築し得ない、実際に生きた人々のライフコースと多世代に及ぶ家族の究極のパネルデータである。これを利用した経済社会地域格差とライフコースの実証的な研究は、歴史人口学の分野のみでなく、より学際的な社会科学の研究の可能性を広げる。特に西欧主導できた社会科学に東アジアの「世帯」「世代」という視点を提供することで、これまでの結婚・出生・死亡・移動研究に新たなアプローチで迫ることが期待できる。また現代の人口減少社会のベースとなった東アジアの伝統的社会的様相を明らかにすることで、現代の研究への示唆がある。
3. 国勢調査以前の人口・経済資料のアーカイブと、資料検索メタデータベースの公開によって、内外の研究者が利用しやすく、かつ一般市民にも開かれた地域研究の交流の場を提供することが期待される。

＜自己評価の実施結果及び対応状況＞

本プロジェクトは、麗澤大学経済社会総合研究センターに属している。毎年センターへ提出する研究計画と実施報告をメンバー間で共有確認し、その上で次年度の計画に反映することで「自己評価の実施」となっている。また、データベース構築に携わる研究者とスタッフを含めた打ち合わせ会議を隔月に開催し、作業進捗状況の把握と問題点の相談対応を行っている。データベース構築に関わる委託事業者からは毎月、スタッフからは年度末、資料検索データベース構築に関わる委託事業者からは年度末ごとにそれぞれ作業報告書を提出してもらい、研究代表者がその内容をチェックし、費用対効果を確認している。また、研究費は、本学(法人)の規則に則って執行しており、かつ毎年度内部監査を受けている。この3年間の自己評価としては、本報告書 11(4)欄に記載しているように、目標<1>については当初の計画通りの成果をあげており、目標<2>も着実に研究が進捗していると判断している。

＜外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況＞

本プロジェクトは日本において長期的マイクロ歴史統計研究の世界的研究拠点を作るという目標を掲げている。そのため第三者評価委員としてふさわしい海外4機関の歴史人口学の拠点で活躍する4名の研究者の協力を得た。プロジェクト2年目には麗澤大学図書館4F プロジェクト室を訪問していただく形で、台湾・中央研究院歴史人口研究プログラム代表の Wen-shan Yang 氏、スペイン・Spanish National Research Council の Diego Ramiro Fariñas 氏、3年目にはプロジェクト代表者が国際会議に参加した際に特別にプレゼンテーションの時間をとっていただき、ミンガン大学 ICPSR 元所長の George Alter 氏、香港科技大学で中国多世代パネルデータ構築・公開(CMGPD)で世界的評価を得ている Cameron Campbell 氏、それぞれからコメントをいただいた。4名とも、体系的にアーカイブとしての資料管理とデータベース構築を進めていることへの評価と、研究への期待が高かった。Fariñas 氏から、本プロジェクト室の様子が人口・家族史研究の先駆者「ケンブリッジグループ」(Cambridge Group for the History of Population and Social Structure)のようだとの評価いただき、光栄であった。この他、(a)データベースの全体像のサマリー表の作成、(b)歴史資料とデータベース全体のレビューペーパーの作成、(c)ICSPR サマリーコース(歴史人口学とデータベース利用トレーニングコース)のような若手育成コース、(d)環境史や遺伝学などの分野との共同研究、(e)大量の未解読歴史資料について、一般人に公開解読してもらうケンブリッジ方式や OCR(光学的文字認識)の利用などのアドバイスをいただいた。(a)(b)については現在取り組んでいる。(c)(d)(e)は本事業の将来的発展のために重要なアドバイスであり、今後検討していきたい。

この他、国内においては歴史人口学セミナーを利用してデータベース構築の進捗状況を2度報告し(*15)(2016年4月、7月)、外部研究者の評価・アドバイスを得た。さらに学内機関ではあるが、毎年度末にプロジェクトの実績報告書を作成し学長に提出している。この報告書は全学的な研究戦略・方針に関する検討・調整を行う「研究戦略会議」(学長、副学長、学部長、研究科長、研究センター長を含む機関)において、執行実績及び研究成果が報告・確認されており、第三者評価の実施の一環となっている。

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 歴史人口学 (2) データベース (3) 宗門・人別改帳
 (4) 地域性 (5) 経済格差 (6) 世帯・家族
 (7) イベントヒストリー分析 (8) GIS

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

1. 有本寛・藤栄剛・仙田徹志 2017「戦前日本農業の規模と土地生産性の相関関係：山形県庄内地方(1935年)の横断観察研究」『経済研究』68(4): 348-370
2. Dong, Hao, Matteo Manfredini, Satomi Kurosu, Wenshan Yang, and James Z. Lee 2017 “Kin and Birth Order Effects on Male Child Mortality: Three East Asian Populations, 1716-1945.” *Evolution and Human Behavior* 38(2): 208-216
DOI: <http://dx.doi.org/10.1016/j.evolhumbehav.2016.10.001> (査読有)(*1)
3. Dong, Hao, and Satomi Kurosu 2017 “Postmarital Residence and Child Sex Selection: Evidence from Northeastern Japan, 1716-1870.” *Demographic Research* 37: 1383-1412 (査読有)(*3)
4. Kurosu, Satomi, Miyuki Takahashi, and Hao Dong 2017 “Marriage, Household Context and Socioeconomic Differentials: Evidence from a Northeastern Town in Japan, 1716-1870.” *Essays in Economic and Business History* 35(1): 239-263 (査読有)(*2)
5. 黒須里美・高橋美由紀・長岡篤 2017「ザビエルデータ」から復元する移動ヒストリー～近世庶民の人口移動研究資料～『言語と文明』15: 139-150 (*6)(*14)
6. 黒須里美 2017 “Linking Past to Present: Long-Term Perspectives on Micro-Level Demographic Processes: IUSSP(国際人口学会)歴史人口学パネルセミナー報告”『人口問題研究』53: 70-74 (*9)(*12)
7. 長岡篤・持木克之・籠義樹 2017「自治体担当者の認識に着目した公共施設の維持管理に関する研究 ―都三県を対象として―」『日本都市計画学会論文集』52(3)(査読有)
8. 齋藤修 2017「人口転換の日韓比較」『日本學士院紀要』71(3): 5-19
9. 高橋美由紀 2017「近世農村における女性の労働とライフコース―陸奥国安積郡の事例を中心に」『農業および園芸』92(7): 578-582
10. 高橋美由紀 2017「武蔵国多摩郡戸倉新田の人口」『経済学季報』66(4): 57-70
11. Tsuya, Noriko O. 2017 “Low Fertility in Japan —No End in Sight.” *Asia Pacific Issues* 131: 1-4 (<http://www.eastwestcenter.org/publications/browe-all-series/asiapacific-issues>)
12. 津谷典子 2017「未婚化と少子化」『統計』68(3): 8-13
13. Saito, Osamu, and M. Takashima 2016 “Estimating the shares of secondary- and tertiary-sector outputs in the age of early modern growth: the case of Japan 1600-1874.” *European Review of Economic History* 20(3): 368-386

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

14. 高橋美由紀 2016 「江戸時代における女性の労働と出産」『経済学季報』65(3-4): 177-190
15. Tsuya, Noriko O. 2016 “Reproduction in Japan.” *Encyclopedia of the History of Science, Technology, and Medicine in Non-Western Cultures*, 3rd Edition: 3736-3738 (DOI: 10.1007/978-94-007-7747-7_10022)(査読有)
16. Dong, Hao, Cameron Campbell, Satomi Kurosu and James Z. Lee 2015 “Household context and individual departure: The case of escape in three ‘unfree’ East Asian populations, 1700–1900.” *Chinese Journal of Sociology* 1(4): 515-539 DOI: 10.1177/2057150X15614547 (査読有)(*1)
17. Dong, Hao, Cameron Campbell, Satomi Kurosu, Wenshan Yang, and James Z. Lee 2015 “New Sources for Comparative Social Science: Historical Population Panel Data from East Asia.” *Demography* 52(3): 1061-1088 DOI: 10.1007/s13524-015-0397-y(査読有)(*7)
18. Moon, Ho-il and Osamu Saito 2015 “The first and second transitions: Japan and South Korea compared.” *Journal of Populations Problems* 71(2): 102-120
19. Rindfuss, Ronald R., Minja K. Choe, Noriko O. Tsuya, Larry L. Bumpass, and Emi Tamaki 2015 “Do Low Survey Response Rates Bias Results? Evidence from Japan.” *Demographic Research* 32: 797-828(査読有)
20. Saito, Osamu 2015 “Growth and inequality in the great and little divergence Debate: a Japanese perspective.” *Economic History Review* 68(2): 399-419 DOI: 10.1111/ehr.12071
21. 高橋美由紀 2015 「近世日本中小都市の経済と人口— 陸奥国安積郡郡山宿と武蔵国埼玉郡粕壁宿—」『比較都市史研究』34(2): 2-3
22. 津谷典子 2015 「国勢調査からみた女性の社会的地位の変化」『統計』66(7): 8-13
23. Tsuya, Noriko O. 2015 “Fertility Transition: East Asia.” *International Encyclopedia of the Social & Behavioral Sciences*, 2nd Edition, 9: 55-59 (DOI: 10.1016/B978-0-08-097086-8.31078-9)(査読有)

<図書>

1. 阿藤 誠・津谷典子 2018 「少子高齢社会の諸相 —ジェンダーと世代間関係の視点から」津谷典子他(編著)『少子高齢時代の女性と家族—パネルデータから分かる日本のジェンダーと家族関係の変容』慶應義塾大学出版会, 1-55 頁.
2. 津谷典子・阿藤 誠・西岡八郎・福田亘孝 2018 『少子高齢時代の女性と家族—パネルデータから分かる日本のジェンダーと家族関係の変容』慶應義塾大学出版会, 345+xvi 頁.(査読有)
3. 津谷典子 2018 「雇用とパートナーシップ形成 —ジェンダーとコホートの視点から」津谷典子他(編著)『少子高齢時代の女性と家族—パネルデータから分かる日本のジェンダーと家族関係の変容』慶應義塾大学出版会, 59-96 頁.
4. 有本 寛・坂根嘉弘 2017 「日本農業と農村問題」深尾京司・中村尚史・中林真幸編 『岩波講座 日本経済の歴史 第4巻近代2』岩波書店, 140-167 頁.
5. Campbell, Cameron and Satomi Kurosu 2017 “Asian Historical Demography” pp.45-53 in Zhongwei Zhao and Adrian Hayes (eds.) Handbook of Asian Demography. Routledge. (査読有)

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

有)(*8)

6. 黒須里美 2017「歴史と人口」日本社会学会 理論応用辞典刊行委員会(編)『社会学理論応用事典』丸善出版 550-551 頁.
7. 斎藤修・高島正憲 2017「人口と都市化と就業構造」深尾京司・中村尚史・中林真幸編『岩波講座日本経済の歴史』第1巻『中世:11世紀から16世紀後半』岩波書店 57-89 頁.
8. 斎藤修・高島正憲 2017「人口と都市化, 移動と就業」, 深尾京司・中村尚史・中林真幸編『岩波講座日本経済の歴史』第2巻『近世:16世紀末から19世紀前半』岩波書店 61-104 頁.
9. 高橋美由紀 2017「人口で測る経済力」中西聡編『経済社会の歴史』名古屋大学出版会 124-143 頁.
10. 坂根嘉弘・有本 寛 2017「工業化期の日本農業」深尾京司・中村尚史・中林真幸編『岩波講座日本経済の歴史 第3巻近代1』岩波書店, 151-178 頁.
11. Kurosu, Satomi 2016 “Historical Demography Going ‘Glocal’: Eurasia Project and Japan” pp.60-62 in Koen Matthijs, Saskia Hin, Jan Kok and Hideko Matsuo (eds.) *The Future of Historical Demography: Upside Down and Inside Out*. Leuven/Den Haag: Acco.
12. Saito, Osamu 2016 “Japan” pp.167-184 in J. Baten (eds.) *A History of the Global Economy*. Cambridge: Cambridge University Press.
13. Saito, Osamu 2016 “Population and economy: towards a conceptual framework for pre-transitional demography” pp.85-88 in K. Matthijs, S. Hin, H. Matsuo, and J. Kok (eds.) *The Future of Historical Demography: Upside down and inside out*. Leuven/Den Haag: Acco.
14. Tsuya, Noriko O. 2016 “Challenges and Prospects of Historical Demography” pp.234-236 in K. Matthijs, S. Hin, H. Matsuo, and J. Kok (eds.) *The Future of Historical Demography: Upside down and inside out*. Leuven/Den Haag: Acco.
15. Saito, Osamu 2015 “Climate, famine, and population in Japanese history: a Long-term perspective” pp.213-229 in B. L. Batten and P. C. Brown (eds.) *Environment and Society in the Japanese Islands: From prehistory to the present*. Corvallis: Oregon State University Press.
16. Tsuya, Noriko O. 2015 “Below-Replacement Fertility in Japan: Patterns, Factors, and Policy Implications” pp.87-106 in Rindfuss, Ronald R. and Choe, Minja Kim (eds.) *Low and Lower Fertility: Variations across Developed Countries*. Cham, Switzerland: Springer International. (DOI: 10.1007/978-3-319-21482-5)(査読有)

<学会発表>

1. 長岡 篤・高橋美由紀・黒須里美「前近代における在郷町郡山を中心とした人口移動の空間的広がりとその要因」日本人口学会関西地域部会 2018/3/17 大阪大学 (*6)(*14)
2. Dong, Hao and Satomi Kurosu “Missing Girls and Missing Boys: Differential Effects of Post-Marital Co-Residence and Household Wealth in Two Japanese Villages, 1716-1870” Population Association of America 2017/4/28 Chicago
3. 黒須里美・加藤彰彦「離婚の社会経済的要因と家族要因—近世日本と現代日本の比較—」日本人口学会第69回大会 2017/6/11 東北大学 (*4)(*13)

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

4. 黒須里美・高橋美由紀・長岡篤「前近代における人口移動—在郷町郡山と周辺農村の比較」日本人口学会第 69 回大会 2017/6/10 東北大学 (*6)(*14)
5. 長岡篤・持木克之・籠義樹「基礎的インフラの維持可能性評価のための指標の検討」日本計画行政学会第 39 回全国大会、2016/9 関西学院大学
6. 高橋美由紀・黒須里美「近世における人口・世帯の変化と地域経済」社会経済史学会第 86 回全国大会 2017/5/27 慶應義塾大学 (*11)
7. Tsuya, Noriko O. “Lowest Low Fertility and Future Demographic Challenges in Japan” 1st Seoul Population Symposium 2017/11/16 Seoul, South Korea (Financial News Korea よりの招待による国際シンポジウムにおける招待講演)
8. Tsuya, Noriko O. “Japan’s Low Fertility: Causes and Policy Responses” MOHW-KIHASA-OECD-UNFPA Joint Conference on Low Fertility 2017/10/19-20 Seoul, South Korea (韓国厚生省よりの招待による国際会議における招待講演)
9. 津谷典子・黒須里美「初婚の社会経済的要因と家族要因—近世日本と現代日本の比較—」日本人口学会第 69 回大会 2017/6/11 東北大学 (*4)(*13)
10. Dong, Hao and Satomi Kurosu “Missing Girls and Missing Boys: Differential Effects of Post-Marital Co-Residence and Household Wealth in Two Japanese Villages, 1716-1870” SSHA, 2016/11/17-19 Chicago
11. Dong, Hao and Satomi Kurosu “Missing Girls and Missing Boys: Differential Effects of Post-Marital Co-Residence and Household Wealth in Two Japanese Villages, 1716-1870” 日本人口学会第 68 回大会 2016/6/12 Reitaku University
12. Kurosu, Satomi and Akihiko Kato “Socioeconomic and Family Determinants of Divorce: Early Modern vs. Contemporary Japan” IUSSP Seminar on Linking Past to Present: Long-Term Perspectives on Micro-Level Demographic Processes. 2016/12/9-10 Reitaku University (*4)(*13)
13. Kurosu, Satomi “Marriage in Early Modern Japan: Family Strategies and Individual Lives” European Society of Historical Demography conference 2016/9/21-24 Leuven (*8)
14. Tsuya, Noriko O. and Satomi Kurosu “Socioeconomic and Family Factors of First Marriage: A Comparative Analysis of Early Modern and Contemporary Japan” IUSSP Seminar on Linking Past to Present: Long-Term Perspectives on Micro-Level Demographic Processes. 2016/12/9-10 Reitaku University (*4)(*13)
15. Tsuya, Noriko O. “Fertility Change in Japan: Recent Trends, Emerging Patterns, and Policy Developments” International Forum on Demographic Dynamics and Policy Responses in China, Japan, and South Korea (hosted by the Korean Association of Population) (韓国人口学会主催国際フォーラム) 2016/9/29 Seoul, South Korea (国際招待講演)
16. Tsuya, Noriko O. “Reproduction in Early Modern Japan: Data, Methods, and Findings” 2nd Biennial European Society of Historical Demography Conference, 2016/9/21-24, University of Leuven, Belgium (*8)
17. Tsuya, Noriko O. “Fertility Decline in East Asia: A Comparative Analysis of Japan, South Korea, and China” 日本人口学会第 68 回大会 2016/6/12 Reitaku University

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

18. Arimoto, Yutaka and Satomi Kurosu “*Land and Labor Reallocation in Pre-modern Japan: A Case of a Northeastern Village in 1720-1870*” 17th World Economic History Congress, 2015/8/3-5 国立京都国際会館 (*5)
19. Kurosu, Satomi and Miyuki Takahashi “Mortality as Demographic Response to Famines and Short-Term Economic Crisis in a Town in Northeastern Japan, 1729-1870” Social Science History Association 2015/11/12-15 Baltimore
20. Kurosu, Satomi and Miyuki Takahashi “Famine and Mortality in Early Modern Japan: Evidence from a Local Post Town” East Asian Environmental History, 2015/10/22-25 Kagawa University
21. 黒須里美・高橋美由紀 「近世東北の結婚・再婚と世帯継承 —在郷町郡山と周辺農村の比較分析—」日本家族社会学会第 25 回大会 2015/9/5-6 追手門学院大学
22. Kurosu, Satomi and Miyuki Takahashi “Marriage and Household Socioeconomic Differentials in Early Modern Northeastern Japan: Rural-Urban Similarity and Diversity” World Economic History Congress 2015/8/3-7 Kyoto
23. Kurosu, Satomi “Remarriage, Gender, and Rural Households in Europe and Asia 1700-1900” 日本人口学会第 67 回大会 2015/6/6-7 椋山女学園大学
24. 黒須里美・高橋美由紀 「近世日本における都市(宿場町)の経済と人口」日本人口学会第 67 回大会 2015/6/6-7 椋山女学園大学
25. Kurosu, Satomi and Miyuki Takahashi “Marriage, Remarriage and the Stem Family Household: Evidence from Northeastern Town and Villages in Japan, 1716-1870” Population Association of America 2015/4/30-5/2 San Diego
26. Lundh, Christer and Satomi Kurosu “*Similarity in Difference: Marriage in Europe and Asia, 1700-1900*” (MIT 2014) Book Session, Social Science History Association 2015/11/12-15 Baltimore
27. Lundh, Christer and Satomi Kurosu “Similarity and difference in pre-industrial Eurasian marriage: Was Malthus right?” World Economic History Congress 2015/8/3-7 Kyoto
28. 高橋美由紀・黒須里美 「近世東北農村における中小都市と農村の歴史人口学的分析 — 陸奥国二本松藩を中心として —」社会経済史学会第 48 回大会 2015/5/30 早稲田大学
29. Tsuya, Noriko O. “Japan’s Low Fertility: Patterns, Factors, and Policy Responses” International Conference on Emerging Issues in Low Fertility and Aging Societies 2015/12/14-16 Seoul, South Korea
30. Tsuya, Noriko O., Minja Kim Choe, Ronald R. Rindfuss, and Larry L. Bumpass “Employment-Time Mismatches of Japanese Men and Women” 3rd Asian Population Association Conference 2015/7/28 Kuala Lumpur, Malaysia
31. 津谷典子 「日本人男女の就業時間」日本人口学会第 67 回大会 2015/6/7 椋山女学園大学

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

<既に実施しているもの>

I 学会実施:2016 年に本プロジェクトにふさわしい Linking Past to Present(過去と現在をつなぎ、そして未来へ)というテーマで、麗澤大学において二つの学会とシンポジウムを開催した。詳細は以下の通りである。(*9)(*12)

(1) 日本人口学会第 68 回大会～Linking Past to Present～

2016 年 6 月 11 日(土)～12 日(日) 麗澤大学校舎あすなろ4-5F

プログラム <http://www.paoj.org/taikai/taikai2016/program2016.pdf>

70 セッション、参加者 202 名(アメリカ、香港、台湾、韓国、中国からの研究者含む)

(2) 公開シンポジウム「人口政策の成り立ちを考える～Linking Past to Present～」

2016 年 6 月 11 日(土)15:00～18:40 麗澤大学 校舎「かえで」1503 教室 (参加者 140 名)

報告 <http://www.reitaku-u.ac.jp/2016/06/20/57288>

組織者:加藤 彰彦(明治大学)・黒須 里美(麗澤大学)

座長:原 俊彦(日本人口学会会長・札幌市立大学)

開催校代表挨拶:中山 理(麗澤大学学長・道徳科学教育センター長)

「近世日本の出産管理 -人口政策前史-」 沢山美果子(岡山大学)

「フランス家族政策の起源 -19 世紀から第 2 次世界大戦-」大塩まゆみ(龍谷大学)

「戦間期スウェーデンにおける人口減少の危機とミュルダール」藤田菜々子(名古屋市立大学)

「戦間期日本における人口問題と社会政策」杉田菜穂(大阪市立大学)

(3) 国際人口学会・国際セミナー

IUSSP seminar on Linking Past to Present: Long-term perspectives on micro-level demographic processes(ミクロレベルデータから迫る長期的人口変動)

Kashiwa, Japan, 9-10 December 2016 麗澤大学キャンパスプラザ

報告 <https://iussp.org/en/iussp-seminar-linking-past-present-kashiwa-dec-2016>

日本、中国、台湾、香港、スウェーデン、ベルギー、イタリア、スペイン、フィンランド、米国の研究者による 18 報告、オブザーバーも含めて参加者 35 名

II 国内外学会におけるセッションの企画と報告 (*10)

(1) 日本人口学会第 67 回大会における企画セッション 2015/6/5-7

http://www.paoj.org/taikai/taikai2015/67program_ver2.pdf 椋山女学園大学

<組織者> 黒須 里美(麗澤大学)

ヨーロッパとアジアにおける結婚と再婚:長期的視点からの国際比較

<座長> 津谷 典子(慶応義塾大学)

<討論者> 斎藤 修(一橋大学) 阿藤 誠(厚生労働統計協会)

“Beyond Malthus: Framework and Achievements of Eurasia Project”

Cameron Campbell and James Z. Lee(The Hong Kong University of Science and Technology)

“Similarity in Difference: Marriage in Europe and Asia 1700-1900”

Christer Lundh(University of Gothenburg, Sweden) 黒須 里美(麗澤大学)

“Remarriage, Gender, and Rural Households in Europe and Asia 1700-1900”

黒須 里美(麗澤大学) Christer Lundh(University of Gothenburg, Sweden)

(2) 世界経済史学会(World Economic History Congress) 2015/8/3-7

<http://www.wehc2015.org/index.html> 京都国際会館

Session: "Similarity and difference in pre-industrial Eurasian marriage: Was Malthus right?"

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

Session organizers: Christer Lundh, Satomi Kurosu
 Christer Lundh “Similarity in Difference: Marriage in Europe and Asia 1700-1900”
 Tommy Bengtsson “The Influence of Economic Factors on First Marriage in Historical Europe and Asia”
Satomi Kurosu “Remarriage, Gender, and Rural Households in Europe and Asia 1700-1900”
 James Z. Lee “Beyond Malthus: Framework and Achievements of Eurasia Project”

(3) 国際人口学会・世界人口会議 (IUSSP International Population Conference) 2017/10/29-11/3
<http://ipc2017capetown.iussp.org/about-the-conference> ケープタウン (南アフリカ)

Session: Household, kinship and population dynamics in historical populations /Ménages, familles et dynamiques démographiques dans les populations du passé

Session Organizer: Satomi Kurosu

Chair: Satomi Kurosu, Reitaku University Theme: Historical Demography

“The Decline of Intergenerational Coresidence in the Twentieth-Century: A Longitudinal View”
 Albert Esteve Palos, Universitat Autònoma de Barcelona. Centre D'Estudis demogràfics (CED); Rocio Trevino, Centre d'Estudis Demogràfics; Anna Turu, Centre d'Estudis Demogràfics; Toni Medina

“Kin Availability and Fertility in a Historical Nuclear Family Society: Sweden 1880-1910”
 Martin Dribe, Lund University; Bjorn Eriksson, Department of Economic History, Lund University

“Labor and marriage networks in a rural community: North Orkney, Scotland 1851-1911” Julia Jennings, University at Albany

III 歴史人口学セミナーの企画・運営・報告 (*10)

<http://www.fl.reitaku-u.ac.jp/pfhp/seminar.html>

No.70 2018年3月17日(土曜日)10:00-17:00

共催: 日本人口学会関西地域部会・2017年度研究会, 総合地球環境学研究所・村山 FS "Living Spaces Project"

会場: 大阪大学文学部大会議室(豊中キャンパス、文法経本館2階北西角)

第1報告(10:10-11:00, 司会: 平井晶子(神戸大学))

高島正憲(東京大学)「8-19世紀における日本列島の長期の都市化と経済成長」

第2報告(11:00-11:50, 司会: 高橋美由紀(立正大学))

長岡 篤(麗澤大学)・高橋美由紀(立正大学)・黒須里美(麗澤大学)

「前近代における在郷町郡山を中心とした人口移動の空間的広がりとその要因」

第3報告(13:00-13:50, 司会: 村山 聡(香川大学))

青木高明(香川大学)「実地形空間における都市・道路網のパターン形成」

第4報告(13:50-14:40, 司会: 山本千映(大阪大学))

藤原直哉(東京大学)「人の流動データによる人口動態解析」

第5報告(14:40-15:30, 司会: 堤 研二(大阪大学))

浅田晴久(奈良女子大学)

「インド・アッサム州の生態環境と多民族社会の人口分布」

特別講演(15:50-16:50, 司会: 中澤 港)

蔣 宏偉(総合地球環境学研究所)「集落の住居分布とマラリア感染リスクの分析」

No.69 2018年3月7日(水曜日) 12:30-17:30

第一部「比較にみる養子縁組」司会 中里英樹(甲南大学)

12:30-12:35 趣旨説明(黒須里美)

12:35-13:05 黒須里美(麗澤大学)・Dong Hao (Princeton University)

「近代移行期日本の養子縁組: 子どもの再分配!!」

13:05-13:35 森口千晶(一橋大学)「二十世紀アメリカにおける養子縁組の変遷」

13:35-14:05 白井千晶(静岡大学)「不妊治療と養子縁組」

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

<p>14:05-14:50 全体討論 討論者 津谷典子(慶應義塾大学)</p> <p>第二部「墮胎と嬰兒殺しの人口学」司会 鬼頭 宏(静岡県立大学)</p> <p>15:15-15:45 太田 素子(和光大学)「子宝と子返し」</p> <p>15:45-16:15 佐藤 龍三郎(中央大学)「近年の日本における人工妊娠中絶の状況と要因について」</p> <p>16:15-16:45 小西 祥子(東京大学)「日本における出産企図と避妊」</p> <p>16:45-17:30 全体討論 討論者 沢山 美果子(岡山大学)</p> <p>No.68 2017年12月2日(土曜日)13:00-16:30 張婷婷(東北大学) 近世越後「他所稼ぎ」の特性について—新潟市西蒲原郡旧角田浜村を事例に Phil Brown (Ohio State University) “Cultivating the Commons: Joint Ownership of Arable Land in Early Modern Japan”</p> <p>No.67 2017年7月15日(土曜日)10:00-13:00 報告1. Mary Louise Nagata (Francis Marion University) "Analyzing marriage and re-marriage in a very mobile urban population: A discussion of methods and early results" 報告2. 高島正憲(東京大学社会科学研究所・日本学術振興会特別研究員PD) 「17-19世紀における都市化と経済成長」</p> <p>No.66 2017年4月22日(土曜日)9:30am-11:50am 「人口・家族の地域性:歴史的観点からの都市と農村の比較」 司会 高橋美由紀(立正大学) 黒須里美(麗澤大学)・高橋美由紀(立正大学)・長岡篤(麗澤大学) 「前近代における人口移動 —在郷町郡山と周辺農村の比較」 湯澤規子(筑波大学)「人口と栄養の近現代史—人口食料問題の都市農村比較—」 討論 安元稔(駒澤大学)・平井晶子(神戸大学)</p> <p>No.65 2017年3月25日(土曜日)9:30-17:10 日本人口学会関西地域研究部会(共催) *会場:神戸大学文学部 B135 小ホール(B棟1階) *テーマ:人口学からみた近代移行期 第1報告(9:40-10:30、報告20分、討論30分、司会:平井晶子(神戸大学)) 長島雄毅(京都大学・院)「職分調査結果にみる明治初期の下京第四区における住民の労働移動」 第2報告(10:30-11:20、司会:平井晶子) 鈴木 允(横浜国大)「大正期における農山村地域からの人口流出の実態—愛知県東加茂郡賀茂村「寄留届綴」の分析から—」 第3報告(11:30-12:20、司会:高橋美由紀(立正大学)) 樋上恵美子(博士(経済学))「周産期死亡率と乳児の先天的な死亡 —20世紀前半の大阪の母胎の状態」 第4報告(13:00-13:50、司会:高橋美由紀) 森本一彦(高野山大学)「近世における先祖祭祀と家」 第5報告(13:50-14:40、司会:中澤 港(神戸大学)) 廣嶋清志(島根大学・名誉教授)「石見・出雲の人口にみる近代への移行」 第6報告(14:40-15:30、司会:中澤 港) 溝口常俊(名古屋大学・名誉教授)「寺院資料に見る災害列島日本」 特別講演(15:40-17:00、講演50分、質疑30分、 座長:鬼頭宏(静岡県立大学学長)) 金城 善(元糸満市立中央図書館長)「琉球・沖縄における人口調査と戸籍資料」</p> <p>No.64 2017年2月6日(月曜日)13:00-16:30 「島根スペシャル:近世から戦前までの人口」 司会:高橋眞一(神戸大学) 廣嶋清志(島根大学) 「石見・出雲の近世人口—沿海・中間・山間の3地域区分を軸として」 小川齊子(島根県教育庁文化財課世界遺産室) 「近世中・後期の石見国海村の人口動態—浜田藩領</p>

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

和木村」

小池司朗(国立社会保障・人口問題研究所)「戦前島根県の市郡別出生力・死亡力算出の試み」

No.63 2016年10月1日(土曜日)13:00-17:00

「地域性をめぐる書評会」司会 平井晶子(神戸大学)

東昇(著)『近世の村と地域情報』(吉川弘文館 2016/3/9)

評者:安元 稔(駒澤大学)

樋上恵美子(著)『近代大阪の乳幼児死亡と社会事業』(大阪大学出版会 2016/3/10)

評者:川口 洋(帝塚山大学)

中島満大(著)『近世西南海村の家族と地域性: 歴史人口学から近代のはじまりを問う』(MINERVA 人文・社会科学叢書 2016/3/12)

評者:廣嶋 清志(島根大学)

落合恵美子(編著)『徳川日本の家族と地域性: 歴史人口学との対話』(ミネルヴァ書房 2015/7/20)

評者:高橋美由紀(立正大学)

全体討論「歴史人口学と地域性」

討論者:溝口常俊(名古屋大学)・村山聡(香川大学)

No.62 2016年7月23日(土曜日)13:00-17:00

第1部 13:00-14:45 Big Data and East Asian Historical Demography

「歴史人口 Big Data の構築: Data Review」(interim report)(*15)

黒須里美、董浩、高橋美由紀、成松佐恵子、速水融(人口・家族史研究プロジェクト)

"Extended Family Systems and Co-resident Kin Influence on Individual Demographic Outcomes Throughout the Life Course: East Asia, 1678-1945"

董浩 (Dong, Hao) (Hong Kong University of Science and Technology, Reitaku University)

第2部 15:00-17:00 Living Spaces Project

「Living Spaces Project における地域クラスタリングと歴史人口学」

村山聡(香川大学教育学部:環境史・経済史)

「都市と道路の共発展モデルからみる人口の地理的分布」

青木高明(香川大学教育学部:非線形物理学・ネットワーク科学)

「人流データに基づく地域クラスタリング」

藤原直哉(東京大学空間情報学研究中心:空間情報科学・ネットワーク科学)

No.61 2016年4月16日(土曜日)10:30-13:00

「BDS(ベーシック・データ・シート)発明からの50年が刻む徳川200年間の10万人」(*15)

"Constructing Big Data for Japanese Historical Population: 50 Years of the Basic Data Sheet (BDS) for 100 Thousand Lives in 200 Years"

黒須里美、董浩、高橋美由紀、成松佐恵子、速水融(人口・家族史研究プロジェクト)

「人口と経済:新しい枠組みを求めて」

"Population and Economy: Towards a Conceptual Framework for Pre-transition Demography"

齋藤修(一橋大学)

No.60 2016年3月17日(木曜日)13:30-16:30

日本人口学会(第68回)シンポジウム準備研究会:人口政策の成り立ちを考える ~Linking Past to Present~

「近世日本の出産管理 -人口政策前史-」 沢山美果子(岡山大学)

「フランス家族政策の起源 -19世紀から第2次世界大戦-」 大塩まゆみ(龍谷大学)

「戦間期スウェーデンにおける人口減少の危機とミュルダール(前史を含む)」 藤田菜々子(名古屋市立大学)

「戦間期日本における人口問題と社会政策」 杉田菜穂(大阪市立大学)

司会・企画: 加藤彰彦(明治大学)、原俊彦(札幌市立大学)、黒須里美(麗澤大学)

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

No.59 2015年10月31日(土曜日)10:30-12:30 麗澤東京センター
 "Building Bridges or Building Highways? The Creation of Longitudinal Population Registers in Spain" Diego Ramiro Fariñas (Spanish National Research Council)

No.58 2015年7月4日(土曜日)10:00-13:00 麗澤東京センター
 「近世東北農村における土地と労働の配分 二本松藩仁井田村, 1720-1870」
 有本 寛(一橋大学) & 黒須里美(麗澤大学)
 「近世海村における再生産と継承の歴史社会学的研究」
 中島満大(神戸大学)

IV. WEB サイト

プロジェクト全体の目的と成果を以下のサイトでまとめ始めている
 麗澤大学 人口・家族史研究プロジェクト/麗澤アーカイブス
<http://www.fl.reitaku-u.ac.jp/pfhp/archives.html>
 (英語サイト) <http://www.fl.reitaku-u.ac.jp/pfhp/index-e.html>

V. 学際セミナー、一般への成果公表・社会的貢献

津谷典子「出生率と結婚の動向 -少子化と未婚化はどこまで続くか-」2018/3/6 財務省財務総合政策研究所先端セミナー

Tsuya, Noriko O. "Japan's Low Fertility: Causes and Policy Responses" 1st Seminar of the 2018 Women's Innovation Network (WIN) Seminar Series, Dow Chemical Japan.

黒須里美「家族のかたちは時代によってこんなに違う」日野公民館主催市民講座「家族のかたちは今？」2017/9/24 日野市中央公民館(講演)

Kurosu, Satomi "Marriage in Early Modern Japan: How We Study Family Strategies and Individual Lives" Joint Usage and Research Center: Workshop on Women and Family Formation in Early Modern Japan 2017/6/16 一橋大学経済研究所

黒須里美「結婚と家族のかたち～江戸の皆婚から麗澤の婚育まで～」2017/4/22 麗澤交友会神奈川県支部 横浜・パークホール(講演)

高橋美由紀「江戸時代の女性:子育てと仕事」立正大学デリバリーカレッジ 2017/10/31 茅ヶ崎市(講演)

津谷典子「出生率と結婚の動向 -少子化と未婚化はどこまで続くか-」2015/10/9, 2016/10/18, 2017/10/13 平成27年度～平成29年度社会保障・人口問題基礎講座(厚生労働統計協会主催)

Dong, Hao and Satomi Kurosu "Missing Girls and Missing Boys: Differential Effects of Post-Marital Co-Residence and Household Wealth in Two Japanese Villages, 1716-1870" 家族の経済学研究会 2016/3/23 一橋大学経済研究所

Kurosu, Satomi "Constructing Big Data for Japanese Historical Population: Challenges and Possibilities" 「数理地理モデリングによる環境人文学の展開」ワークショップ 2016/10/31-11/1 京都大学数理解析研究所

高橋美由紀 古文書から考える江戸時代の村と町ー人口を中心として」立正大学デリバリーカレッジ 2016/9/24 佐野市(講演)

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

津谷典子「出生率と結婚の動向-少子化と未婚化はどこまで続くか-」2016/12/5 味の素株式会社役員研修

高橋美由紀「歴史から人口を考える—過去もあった『少子化』とその対策—」立正大学デリバリーカレッジ 2015/9/17 郡山市 (講演)

高橋美由紀「近世日本中小都市の経済と人口—陸奥国安積郡郡山宿と武蔵国埼玉郡粕壁宿—」2015/4/18 比較都市史研究例会

<これから実施する予定のもの>

- (1)2018年6月 日本人口学会第70回大会における企画セッション(明海大学)
Family Strategy vs. Child Welfare: Comparative Studies of Adoption Using Micro-Level Data from the 18th to 20th Centuries
- (2)2018年7月 世界経済史学会大会(World Economic History Congress)における企画セッション(米国マサチューセッツ州ケンブリッジ)
- (3)2018年11月 社会科学史協会大会(Social Science History Association)における企画セッション(米国アリゾナ州フィニックス)
- (4)歴史人口学セミナー:2-3ヶ月に1度で継続(次回は2018/6/30, 7/7)
- (5)2019年度:プロジェクト資料と成果の一般公開展示、シンポジウム

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

特になし

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

留意事項なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	8,216	4,288	3,928				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	9,731	5,735	3,996				
平成29年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	7,894	4,709	3,185				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	25,841	14,732	11,109	0	0	0	
総計	25,841	14,732	11,109	0	0	0		

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
麗澤大学図書館	27	176m ²	3	15	-	-	-

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 27 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	637	研究資料保管棚等	637
光熱水費	0		0
通信運搬費	3	郵送料、宅配便	3
印刷製本費	0		0
旅費交通費	497	海外旅費・国内旅費	497
報酬・委託料	4,318	業務委託	4,318
(営繕費)	270	研究室扉の新設整備等	270
(ソフト料)	1,203	研究資料作成ソフト	1,203
(雑費)	19	会議費	19
計	6,947		6,947
アルバイト関係支出			
人件費支出 (兼務職員)	296	研究補助データ入力等	296
教育研究経費支出			
計	296		296
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	973	パソコン	973
図書			
計	973		973
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		0

法人番号	121004
プロジェクト番号	S1591001L

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	12	研究用消耗品	12
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	7	郵送料、宅配便	7
印 刷 製 本 費	1	看板作成	1
旅 費 交 通 費	793	海外旅費・国内旅費	793
賃 借 料	32	会議費	32
報 酬 ・ 委 託 料	5,950	業務委託	5,950
(修 繕 費)	279	ソフト使用更新料	279
(雑 費)	693	会議費	693
計	7,767		7,767
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,964	研究補助データ入力等	1,964
教育研究経費支出			
計	1,964		1,964
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書			
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		0

年 度	平成 29 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	303	研究用書籍、消耗品	303
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	6	郵送料、宅配便	6
印 刷 製 本 費	0		0
旅 費 交 通 費	955	海外旅費・国内旅費	955
賃 借 料	0		0
報 酬 ・ 委 託 料	4,456	業務委託	4,456
(修 繕 費)	0		0
(雑 費)	66	会議費	66
計	5,786		5,786
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,205	研究補助データ入力等	1,205
教育研究経費支出			
計	1,205		1,205
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	133	パソコン	133
図 書			
計	133		133
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	770	文献リサーチ等研究補助	770
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	770		770